



2023.4.9.

イースターの朝早く、友人から「卵からヒヨコがぴょん。花がパッと咲いて、ウサギがぴょん！」の動画がスマホに飛び込んできました。なんて可愛らしく、彩りよく、温かい動画でしょうか。嬉しくなって、さっそく拡散してしまいました。

子どもにとって、イースターのお楽しみと言え、なんと言っても卵です。この日には永遠の命を象徴する卵が子どもたちにプレゼントされます。礼拝の帰りに卵型のチョコレートのプレゼントをいただきました。おばあさんになっても嬉しいものです。「イースター・復活祭」は、十字架に架けられた主イエスが死よりよみがえり、永遠に生きておられることを信じ、喜ぶ教会の最大の祝祭日です。

「永遠の命」という言葉を聞いても、「不老長寿」や「不死」と考える人はいないでしょう。また、危篤の人、仮死状態の人が、息を吹き返すことはあっても、死人が生き返るとは、聞いたことがありません。だれでも必ず死ぬと知っています。死ぬべき人間が「神」に結びつく時、その人間は「永遠の命」を頂いたと信じるのが、私たちの信仰、キリスト教です。それを示して下さったのが主イエス・キリストです。主イエスは、この世の権力、この世の習わし、先祖の言い伝え等、圧倒的と思える力を超える真実の力、即ち、神の愛を示されました。それが、私を生かす力なのです。

私は「永遠」という思いを、幼い弟の光夫が3カ月も生きることができずに亡くなった時、強く意識させられました。弟は栄養失調のために、衰弱し、弱り果てて、死にました。両親の悲しみは大変なものでした。私と同じように与えられた命でありながら、弟はただ苦しんで息絶えたのです。弟はどこへ行くのだろう、小さい肉体は、火葬場で灰となり、小さな骨壺に入れられ、墓地の土の中に納められたのを見ました。けれども、弟は「神のもとから来て、神のもとに帰った。生きていたほんの短い瞬間にも神が共にいて下さった。光夫の霊を委ねます」と両親は祈りました。その時、私は弟が永遠の命に生きているとの思いになったのです。



挿し木した薔薇

神が人を愛し、世に送り、また、神のもとに召すということを知る事が、「永遠の命」を信じる事です。立派なこと何ひとつできなくても、神様に与えられた命を大切に、感謝して生き切る事、それを思う時がイースターです。どんな小さな命も、神によって生かされていると信じます。



根付いた薔薇